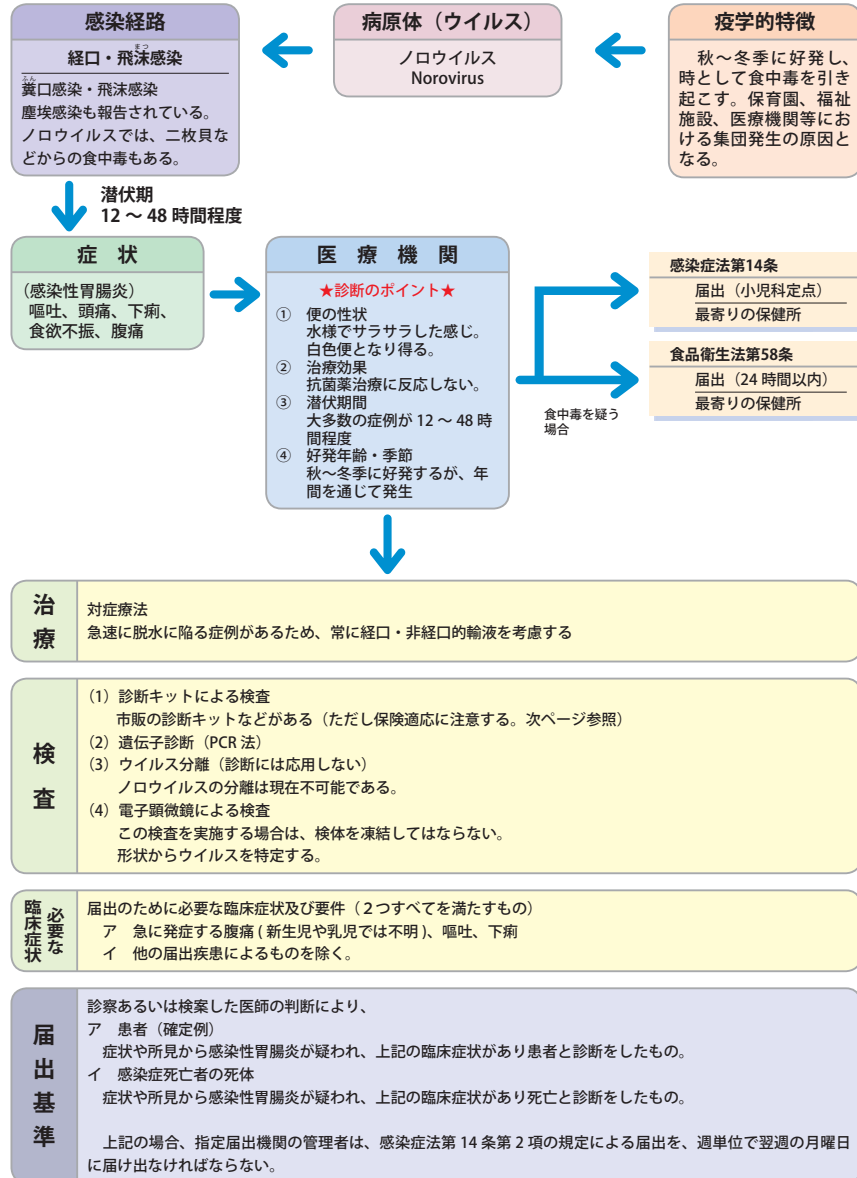


(6) 感染性胃腸炎（ノロウイルス） ……五類感染症・小児科定点

Viral gastroenteritis



参考図書

- 厚生労働省 感染性胃腸炎（特にノロウイルス）について  
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/norovirus/>
- Norovirus Guidelines for Healthcare Settings  
<https://www.cdc.gov/infectioncontrol/guidelines/norovirus/index.html>

**発生状況** 東南アジアでは年間を通じて発生しているが、我が国を含め温帯地域、先進国ではノロウイルスによる胃腸炎発生は、秋～冬季に集中している。

**臨床症状** ノロウイルスによる胃腸炎では、悪心79%、嘔吐69%、下痢66%、発熱37%、腹痛10%で、小児ではおう吐が、成人では下痢が多い傾向にある。有症期間は平均24～48時間である。

**検査所見** 患者便を検査する。  
ノロウイルスの診断用キットにより陽性結果を得る。  
参考）ノロウイルス抗原キットの保険適応（下記の患者に限り、月1回まで）  
① 3歳未満 ② 65歳以上 ③ 悪性腫瘍の診断が確定している患者 ④ 臓器移植後の患者 ⑤ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、または免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者

**病原体** ノロウイルス (Norovirus)

**感染経路** ノロウイルスでは、汚染された水や貝（主にカキなどの二枚貝）を介した感染、発症が認められている。また、吐物などによって生じたウイルスを含む水滴などを吸い込む飛沫による感染も推定されている。  
エアロゾル感染もありえる。

**潜伏期** 12～48時間程度。

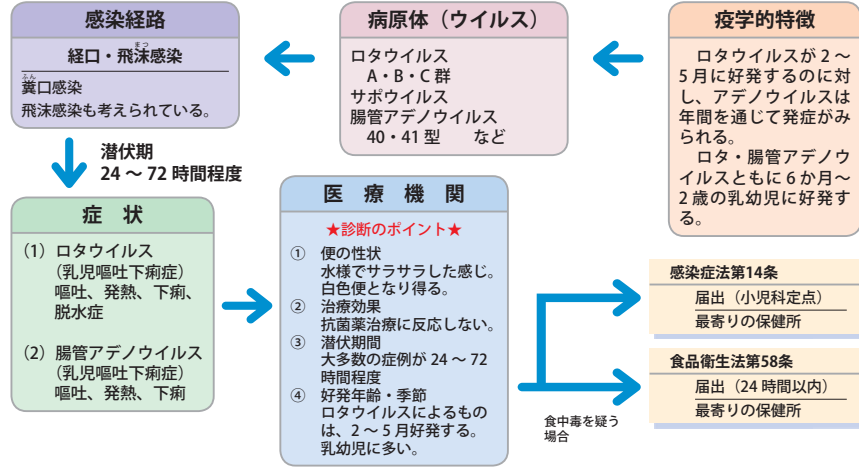
**行政対応** 指定届出機関（小児科定点）の医師は、翌週の月曜日までに最寄りの保健所に年齢・性別ごとの感染性胃腸炎の患者発生数を届け出る。  
医療機関、保育園などにおける集団感染事例は、対応について適宜保健所の指導を受ける（集団発生時の対応の項110ページ参照）。

**拡大防止** アルコールは無効である。  
吐物や糞便はエアロゾル化して感染を拡大させる可能性があるため、注意深く除去する。入院中の場合は个人防护具（手袋、マスク、ガウン）を装着し、次亜塩素酸溶液で環境表面を清拭する。  
入院する場合は個室またはコホーティングとし、嘔吐・下痢症状が治癒してから48時間経過したら、解除できる。免疫不全状態（HIV感染症、担癌患者、透析患者など）では、ウイルス排出が長期化することがあり、その際は個室またはコホーティング期間の延長を考慮する。2歳未満の幼児もウイルス排出が遅延するため、症状の改善から5日経過するまで個室またはコホーティングする。ただし治療後も便から1か月以上、便からウイルスを排出している場合もあり、手洗いの励行は継続する必要がある。

**治療方針** 病原体になるウイルス群への特効的薬剤がないので対症的に処置するが、急速に脱水に陥る症例があるため、常に経口・非経口的輸液を考慮する。

(7) 感染性胃腸炎(ノロウイルスを除く) ……五類感染症・小児科定点

Viral gastroenteritis



参考図書  
 (1) 東京都感染症情報センター 感染性胃腸炎  
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/diseases/gastro/>  
 (2) CDC ホームページ Rotavirus  
<https://www.cdc.gov/rotavirus/index.html>

**発生状況** 東南アジアでは年間を通じて発生しているが、我が国を含め温帯地域、先進国ではロタウイルスによる胃腸炎発生は、圧倒的に2～5月に集中している。腸管アデノウイルスによる胃腸炎は年間を通じて散発的に見られている。

**臨床症状** ロタウイルス感染症の主症状は嘔吐、下痢である。1歳以下は重症化しやすく、けいれん発作を起こすことがある。下痢持続期間は平均5～6日で、発熱は34～86%に認められる。腸管アデノウイルスによるものは、嘔吐を伴うが、下痢が前景にたち、症状持続は9～12日と長い。白色から黄白色水様便が特徴である。

**検査所見** 患者便を検査する。A群ロタウイルスの診断用キットにより陽性結果を得る。腸管アデノウイルスについても同様のキットがある。

**病原体** ロタウイルス(Rotavirus) A・B・C群(B群は日本での発生報告はない) サポウイルス(Sapovirus) など 腸管アデノウイルス(Adenovirus) 40・41型など D・F群ロタウイルスはヒトからは分離されない。ロタウイルスは、2017年7月現在2種類のワクチンが認可されており、任意接種である。

**感染経路** いずれのウイルス性胃腸炎でも糞口感染が主要ルートになるが、飛沫による感染も推定されている。A群ロタウイルス、腸管アデノウイルス40、41型は乳幼児で感受性が高く、年長児～成人では非A群ロタウイルスに感受性がある。

**潜伏期** 24～72時間程度。

**行政対応** 指定届出機関(小児科定点)の医師は、翌週の月曜日までに最寄りの保健所に年齢・性別ごとの感染性胃腸炎の患者発生数を届け出る。医療機関、保育園などにおける集団感染事例は、対応について適宜保健所の指導を受ける(集団発生時の対応の項102ページ参照)。

**拡大防止** 現状では手洗いの励行、汚染された衣類などの次亜塩素酸による消毒のほか、汚染された水、食品などの摂取を避けるよう掛ける。

**治療方針** 病原体になるウイルス群への特効的薬剤がないので対症的に処置するが、急速に脱水に陥る症例があるので常に経口・非経口的輸液を考慮する。